
スマブラatロンドンオリンピック

スマッシュ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマブラatロンドンオリンピック

【Nコード】

N1548BA

【作者名】

スマッシュ

【あらすじ】

これは、マリオ&ソニックatロンドンオリンピックをしながら書いているので意味不明なところもあるでしょうが見てくださいね！

スマッシュブラザーズと100m走

マリオ「なあ、ルイージ。俺達、マリオキャラとソニックキャラで共演したゲームじゃないか！」

ルイージ「しかも、最近のだよ・・・」

リンク「そうなんですか!？」

ソニック「ああ、そうだ。あれはみんな、以外にもはやかったな」

マリオ「まあ、ソニックの速さを普通の速さにされていたからな」

クッパ「ウム!これは、かなり大変な競技ばかりだったからな・・・」

「

ピーチ「ねえ、そろそろ、マスターが来そうなんじゃない?」

ブワァン!

マスター「やあ!」

クレイジー「・・・」

マルス「予想的中だね・・・」

マスター「知ってたのか?」

アイク「みんな、知ってた・・・」

マスター「なら、話が早い!さて、オリンピックの開催する。イギ

リスのロンドンへ行こう!」

マリオ「ああ・・・また、行くのか、久しぶりだな・・・」

ピーチ「また、買い物できるのね」

マスター「ああ、そうだそうだ!リストラ軍団も来るからな!」

クレイジー「・・・」

ルイージ「ところでなんでクレイジーが無口なの?」

マスター「ん?クレイジーは人間になるのは嫌がるからな・・・」

クレイジー「・・・」

ゼルダ「早く行きましょう!」

マスター「そうだな!では、行くぞ!」

パチン!ブワァン!

ロンドン

ブワァン！

マスター「来たぞ！」

マリオ「久しぶりのロンドンだー！」

ルイーダ「あ！ビックベンがあるよ！このこうけいも久しぶりだな
！」

リンク「へー！ここがロンドンですか！」

ピーチ「ええ、そうよ！私達はここでオリンピックをしたわよ！」

マリオ「なあ、マスター！今思ったんだが、マリオキャラとソニック
くって案外強いと思うんだが・・・」

マスター「そのところは大丈夫だ！では、競技場に行くぞ！」

ロイ「そうだね！」

競技場

マリオ「なんだ！やっぱり、この競技場だったか！」

マスター「ほとんど全ての競技があるぞ！」

ルイーダ「そういえば、僕達のでは全競技をやったなかったね！」

マルス「早くやりましょう！」

マスター「では、今から100m走をするぞ！」

マリオ「8人で走るんだよな！」

マスター「決まったぞ！」

マリオ ソニック リンク ピカチュウ カービィ フォックス

ヨッシー ルイーダ

マリオ「よっしゃ！出場だ！」

ルイーダ「負けないよ！」

マスター「では、クレイジー！ピストルをやってくれ！」

クレイジー「・・・ready?GO！」パーン！

マスター「おっと！全員スタートダッシュ成功だ！」

マリオ「負けるかー！」

ソニック「今回は負けないぜ！マリオ！」
ルイーダ「僕達もだよ！」

ピカチュウ「たのしいなあ！」

リンク「私は短距離より長距離の方が多分いいですね・・・」

カービィ「速く走らないとなあ・・・」

フォックス「走りには自信があるぞ！」

ヨッシー「頑張らないといけないですね・・・」

マスター「これは接戦だ！」

ゴールー！

3位はフォックス

2位はルイーダ

1位はマリオとソニック！？

ピーチ「あらあら・・・2人が1位ね・・・」

マスター「これはすごい！2人で1位獲得だー！」

クレイジー「・・・これで100m走を終わる・・・」

次回、ハードル走

スマッシュブラザーズと100m走（後書き）

この小説・・・たいへんだな・・・

110mハードル走（前書き）

マルス「これは難しい競技かもしれないな・・・」

110mハードル走

マスター「では、次は110mハードル走をします」

観客「わーっ！」

マリオ（なぜ、観客がいる？）

マスター「出る選手は

マルス アイク ロイ シーク ガノンドロフ クツパ ワリオ

スネーク だー！」

マルス「・・・」

アイク「あとの4人は・・・」

ロイ「おっさんだね・・・」

4人「おっさん言うな！」

クレイジー「・・・REDEY?GO!」ぱーん！

マルス「うおおお！」

アイク「どりゃー！」

クツパ「そら！」

6人「何ー!？」

ロイ「あいつがこんなに出来るとは・・・」

シーク「なんかこんがらがるな・・・」

ガノンドロフ「あいつにジャンプが出来るとはやばいな・・・」

琶痢尾^{ワリオ}「俺もついていくぜ！って琶痢尾^{ワリオ}って書くなー！」

スネーク「あんな奴にも負けるか！どりゃー！」

ゴール！

マスター「では8位から1位まで言っていくぞ！」

8位 ガノンドロフ

7位 琶痢尾^{ワリオ}

6位 スネーク

5位 シーク

4位 アイク

3位 ロイ

2位 マルス

1位 クツパ！？

マルス「まさか・・・クツパに負けた・・・」
アイク「・・・・・・・・」

次回、100×4mリレー

100×4mリレー（前書き）

マリオ「これは楽勝な競技だったな・・・」

100×4mリレー

マスター「じゃあ、次の競技に入るぞ！次の競技は100×4mリレーだ！

出場は1チーム4人で4コースしかないぞ！だから16人までだ！

1コース マリオ ルイージ リンク ソニック

2コース マルス ロイ カービィ メタナイト

3コース アイク シーク デイディー ピーチ

4コース ゼルダ ピカチュウ レッド ネス

この競技はバトンをもって走るリレーだ！やり方はみんなわかってるはずだ！いいな！」

クレイジー「Set・・・Ready?GO!」パーン！

マリオ「イヤッハー！」

マルス「せやー！」

アイク「どりやー！」

ゼルダ「それ！」

100m地点

ルイージ「あつ！兄さん！おい！」

ロイ「頑張ってください！」

シーク「早く来てくれ！」

ピカチュウ「この中の速さならいけるかな？」

マリオ「ルイージ！はい！」

マルス「ごめん！遅れた！はいっ！」

アイク「ハイッ！」

ゼルダ「はいっ！」

ルイージ「いえーっ！」

ロイ「はーっ！」

シーク「ふっ！」

ピカチュウ「ピカチュウー！」

200m地点

リンク「ルイージさん！こっちですよー！」

カービィ「速く走ってよー！」

デイディー「早くバトンを渡すして！」

レッド「走りには自信があるんです！」

ルイージ「はいっ！リンク！」

ロイ「はい」

シーク「ほらっ！」

ピカチュウ「はいっ！」

300m地点

ソニック「遅すぎだぜ！」

メタナイト「本当にそうだ！」

ピーチ「そんな、怒らないで！紅茶でも・・・」

ネス「もうよ！」

ソニック「そんな間ないだろ・・・」

リンク「すみません！遅かったですか？」

ソニック「大丈夫だぜ！全力で走ってやるからさ！」

カービィ「はいっ！メタナイト！」

メタナイト「ウム！」

レッド「1人抜きました！はいっ！ネス君！」

ネス「ありがとう！」

デイディー「ごめん！ピーチ姫！待たせたかな・・・」

ピーチ「大丈夫だからバトンを早く渡してちょうだい！」

ゴール！

4位 第3コース

3位 第4コース

2位 第2コース

1位 第1コース

次回、走り幅跳び

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1548ba/>

スマブラatロンドンオリンピック

2012年1月5日22時45分発行